

【上山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手立ての1つとして、ICT環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることがある。今後、次期GIGAスクール構想でICT環境を整備することを1つのきっかけとして、次のような児童生徒の学びの姿を目指していきたいと考える。

個別最適な学びを実現するために、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた学習計画に基づいて学びを進める。さらに、教育ダッシュボード等を活用し、自分を見つめ、自分を高めようとする姿を目指す。さらには、教員、保護者も同じものを見ながら面談等を行い、共通理解を図りながら子どもと接することが可能となる。また、協働的な学びを実現するために、児童生徒が他の児童生徒とつながり、課題解決に取り組むことで、自己の考えを広げ深めることができるようにする。また、学校内にとどまらず、地域の方々、遠くにいる専門家、海外等とつながることも視野に入れることができる。それらを通して、学力テストでは図ることのできない力を身につけることに繋げていく。

このような姿を目指し、学びを積み重ねていくことで身につけた力は、これからの時代を生き抜くために必要不可欠な能力を育むことに繋がる。世の中にはたくさんの情報があふれており、その中から必要なものは何かを自ら考えて取捨選択しなければならない。また、他者と協働しながら、新たな価値を創造するといった場面で活躍できる人材を育てていく。

2. GIGA第1期の総括

本市では第1期GIGAスクール構想において、小・中学校合わせて1,820台のGIGA端末を整備した。また、それに伴うネットワーク環境や電子黒板等の周辺機器も整備した。当該ICT環境のもと、各小中学校では研修や授業研究を進め、1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を重ねてきた。特に運用面においては、各校代表によるICT教育研究委員会を定期的に行い、「ICT活用のCan-Doリスト」や「活用事例集」を作成するなど、市共通で活用推進に取り組んできた。

しかしながら、授業における活用状況については学校間、教員間に差がみられる状況にある。代表者のみではなく、教員全員がICTを活用した指導法や校務DXについて互いに学びあい研鑽する機会を作る必要がある。また、学習に関わって主に活用してきたが、児童生徒の心身の健康に関わる活用については進んでいない現状にある。この面についても活用策を講じていく必要がある。

また、第1期で整備後4年経過した現在、ネットワークにつながりにくい、端末の立ち上がりが遅い等といった授業に影響を与えるような課題を抱えている。第1期構想時は、準備期間が短く、端末を導入してから運用面を考えてきた経緯があるが、第2期構想においては、今後5年以上を見越して実践的な運用につながるよう十分な準備をしながら整備していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利用によって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。

「個別最適な学び」については、学習支援ツールやAIドリルの学習履歴や学習データを活用することで、一人ひとりの特性や学習進度に応じた指導の個別化を進めるとともに、興味・関心や意欲に応じた学習活動の機会を提供する学習の最適化を目指していく。また、多様化・複雑化する子どもたちのニーズ・課題に応え、学びの機会を保障し教育の機会均等を確保する。

「協働的な学び」については、学習支援ツールでデータを共有したり、共同編集機能を活用したりすることを通して、お互いの進捗を手がかりに学びを深め、協働する他者の考えを尊重しながら自分の意見をより良いものにする力を身につけさせることができる。また、学校外であっても児童生徒の意思を尊重しながらオンラインでの授業にできるようにすることで、学習の機会を確保する。

このような学習を進めていくために、1人1台端末の整備・更新により、児童生徒の学びをより良いものにしていくことが必要不可欠である。

また、学習面だけではなく、健康観察や心の健康に関する記録など、児童生徒の日々の様子の入力を通して、子どもたちが発信したり、教員が把握したりすることについても進めていき、子どもたちにとっての安全安心の向上に努める。

さらに、その支えとなる教員がICTを有効に活用し、児童生徒にとって充実した教育を提供することができるよう、研修等の充実を図っていく。具体的に各学校のニーズ・課題に応じた研修を実施するとともに、学校代表が参加するICT担当者会の内容を各学校における研修に活かすなど、全ての教員が効果的に利活用できるよう研修環境を整えていく。